



2016年 新年ご挨拶

スーパー連携大学院コンソーシアムwebニュース
2016年1月12日号

●2016年 新年ご挨拶

スーパー連携大学院コンソーシアム 会長
梶谷 誠



あけましておめでとうございます。

スーパー連携大学院が開設して6年目を迎え、4月からは文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」としての最終年度に入ります。

この3月には、スーパー連携大学院のプログラムを修了する初めての博士が誕生し、在籍大学から博士号とイノベーション博士サーティフィケートが授与される予定です。

現在、各大学の博士後期課程に在籍しているスーパー連携大学院プログラムの受講生（イノベーション博士候補）は10名弱ですので、今後毎年数名の博士が生まれる予定です。今後、受講生がさらに増え、スーパー連携大学院から毎年着実にイノベーション博士が巣立って行くことを願っています。

さて、スーパー連携大学院の特徴を簡単に示すと次の3点に集約されます。

- ①スーパー連携大学院コンソーシアムを産学官の連携により共同運営していること
- ②修士・博士一貫の教育プログラムを産学官の連携により設計・運用して、イノベーション博士（Industrial PhD）を育成していること
- ③博士研究のために産学共同研究プロジェクトへ参画することが必須で、アカデミア以外の分野で活躍することが求められていること

これらは、従来の標準的な博士養成プログラムとは異なるとてもユニークな取組で、博士の活躍の場の多様化とイノベーションを先導するリーダー人材の輩出を目指しています。

私たちは、このようなスーパー連携大学院の特徴のうち次の二つのことを国として制度化してほしいと関係方面に働きかけています。

- I. イノベーション博士（Industrial PhD、仮称）称号授与認定制度
一定の要件を満たした博士教育プログラムの修了者にイノベーション博士（仮称）のような新しい学位あるいはサーティフィケートを授与できる認定制度
- II. 産学連携型学位研究支援制度
前述③のような産学連携による博士研究共同プロジェクトが、一定の要件を満たして審査に合格した場合には、国又は公的機関が、それに参画する博士学生に対する経済支援と研究プロジェクト経費の一部を支援する制度

上記のような制度が確立されると、スーパー連携大学院はこれを活用させてもらうことにより、優秀な博士進学者の増加が見込め、所期の目的を持続的かつ発展的に達成できると期待しています。そればかりか、この制度を活用した新たな他の取組が他大学等からも提案されることになり、日本における博士養成の多様化と活性化を促進し、高等教育全体の活性化に波及することが期待されます。

私たちは、これらの制度が実現するよう鋭意努力しておりますが、産学官の関係者の皆様、学生諸君の皆様のご賛同とご支援を心からお願い申し上げます。